



1



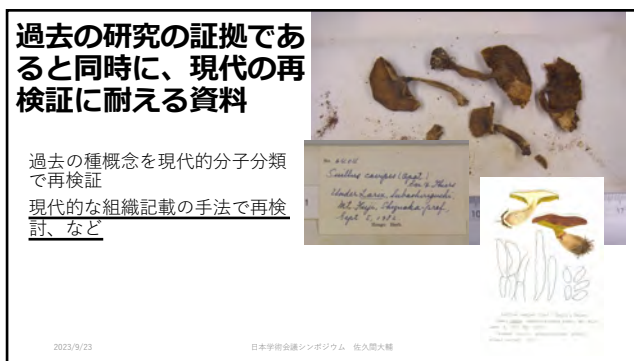
2



3



4



5



6

学術のために作られた資料であると同時に市民の「学び」につながる資料



実際、本郷氏は教育学部教授として、教員養成だけでなく、市民科学者としての教員の支援、アマチュアの教育にも大きく力を注ぎ、日本の菌学の幅広い裾野を築いた。

2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

7

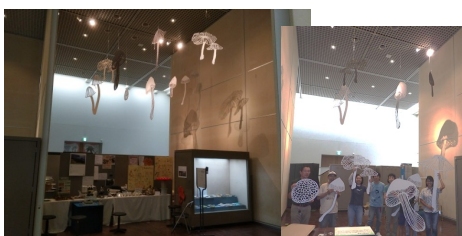
標本と研究成果をつなぐ




2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

8

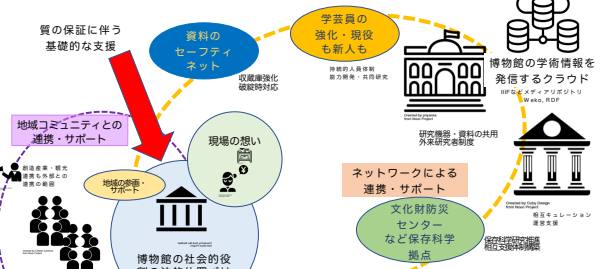
自然史標本は科学のために?? それだけじゃもったいない 大学での研究成果と市民をつなぐ



2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

9


資料を保全・活用するための基盤づくり



2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

10

自然史コレクションの維持は大学と博物館の共同の課題

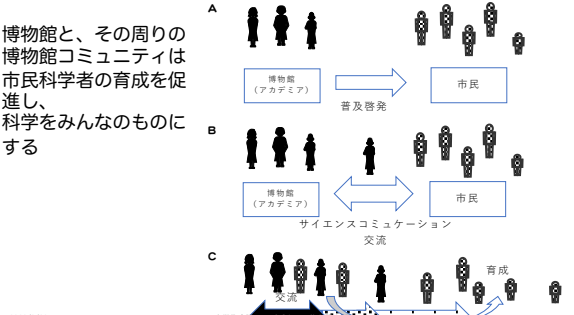


- 国際自然史標本保全学会 (SPNHC) は大小様々な大学コレクション担当者と、博物館の連合体で構成される。
- アメリカではこうした現場の積み重ねとNSAの政策提言がコレクションのデジタル化・データの共有化を協力を推進。

2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

11

博物館と、その周りの博物館コミュニティは市民科学者の育成を促進し、科学をみんなのものにする



2023/9/23 日本学術会議シンポジウム 佐久間大輔

12

